

## 日本ウナギ会議 2015 要旨

日本ウナギ会議 2015 運営委員会

**主催**：日本ウナギ会議 2015 運営委員会

**日時**：2015 年 5 月 2 日（土） 10:00 から 16:15

**場所**：水産総合研究センター・中央水産研究所 講堂

**参加者（順不同・敬称略）**：吉永龍起（北里大学）、太田慎吾（水産庁）、中村徹立（国土交通省利根川下流河川事務所）、辻村千尋（日本自然保護協会）、塚本勝巳（日本大学）、篠田章（東京医科大学）、湧井恭行・堺美貴（全国鰻蒲焼商組合連合会）、黒木真理・青山潤・吉田丈人・板倉光・木村伸吾（東京大学）、大越徹夫（全国内水面漁業協同組合連合会）、寺田佐恵子（環境省 オブザーバー参加）、鈴木治（全国荷受組合連合会）、富山実（愛知県水産試験場内水面漁業研究所）、白石広美（トラフィックイーストアジアジャパン）、及川浩之（株式会社大地を守る会）、望岡典隆（九州大学）、柵瀬信夫（鹿島建設）、白石嘉男（日本養鰻漁業協同組合連合会）、若林稔（日本養鰻漁業協同組合連合会）、内田和男（水産総合研究センター）、田中栄次（東京海洋大学）、箱山洋・桑田博・横内一樹（水産総合研究センター増養殖研究所）、張成年・杉崎宏哉（水産総合研究センター中央水産研究所）、大和田猛（伊藤忠飼料）、白鳥勝（一般社団法人日本養魚飼料協会）、海部健三・脇谷量子郎（中央大学）、清水孝昭（愛媛県水産研究センター栽培資源研究所）、川辺みどり（東京海洋大学）、秋山貴彦・高野智沙登（パルシステム連合会）、吉島重鐵（日本鰻協会）、山内愛子（WWF）、金山亮（西友）（敬称略 順不同）

**要旨**：会議の内容を以下にまとめる。

### 記

- (1) 会の規約（目的・名称・活動内容）について、以下のように決議された。
  - a) 目的：ウナギの保全と持続的利用を目指し、関係者間の情報共有を促進する。
  - b) 名称：日本ウナギ会議
  - c) 活動内容：年一回以上の会議の他、会議の参加者が関係者間の情報共有を促進するために必要と認めた活動を行う。情報共有の対象とする内容は、(i) シラスウナギ・黄ウナギ・銀ウナギの採捕・漁獲管理、(ii) 養鰻業の管理、(iii) ウナギの流通・消費、(iv) 河川や沿岸域など成育場の環境保全と回復、(v) 資源動態、および資源回復のための対策が生じさせる効果・影響のモニタリング、(vi) 社会全体での情報共有、(vii) その他実行委員会が必要とする事項とする。
  - d) その他：議論は非公開とする。会議で得られた情報を所属する組織内で共有することは可能とするが、組織外に提供する場合には情報提供者の了承を得る。
- (2) 13名の参加者からウナギに関する課題／新知見／取り組みが発表され、日本のウナギをめぐる現状および保全と持続的利用に関する取り組みの情報共有が進められた。
- (3) 情報共有の促進のため、全国で行われている保全と持続的利用のための方策をとりまとめることが決議され、実行委員会が次回の会合で報告することとなった。
- (4) 次回以降の運営について、以下のように決議された。

- a) 頻度と時期：年一回、シラスウナギ採捕量の情報と前年度の調査の情報が出そろった5月頃に行う。ただし、必要があれば実行委員会からの提案によって開催する。
- b) 運営：回ごとに実行委員会を組織し、運営にあたる。次回実行委員の選出は、前回の会合において、自薦および他薦による。10名を越えた場合は協議して決定する。実行委員の中から委員長を選出する。
- c) 参加者および議題：実行委員会は、新たに会合に参加してもらいたい関係者及び扱うべき議題について、前回の参加者に諮ることとする。

以上